14	ショーウインドウ放牧で「近江牛」をＰＲ
	大中地域放牧場（滋賀県近江八幡市）

キーワード
●「近江牛」のＰＲを目的とした和牛放牧
●交通量の多い道路に面した放牧場での安全対策
●夏牧草「グリーンミレット」を活用した転牧体系

１　地域の概要

大中地域は滋賀県のほぼ中央部に位置し、近江八幡市、東近江市、安土町の３市町にまたがる総面積１,１４５haの県内最大の農業地帯である。

昭和３２年からの国営干拓事業により大中の湖を埋め立てできた大区画の水田では、水稲を主体に露地野菜、施設園芸が行われている。

畜産においては肉用牛、酪農、養豚が営なわれ、特に肉牛部門では県の約３割を占める４,９００頭の肉用牛が飼育され「近江牛」「近江大中牛」のブランド名で全国にその名が知られている。

２　経営の概要

今回紹介する放牧の取り組みは、ＪＡグリーン近江肉牛部会（部会員４２名）が「近江牛」のＰＲ事業として実施しており、平成２０年度は２戸の部会員が繁殖用和牛５頭を放牧されている。２戸はいずれも和牛を主体とした繁殖肥育一貫経営農家で､両農家とも約５０頭の繁殖牛と２００頭規模の和牛等の肥育が行われている。

自給飼料の生産は繁殖牛の粗飼料として、スーダングラス、エン麦のロールサイレージの生産が行われており、放牧場では夏牧草が栽培されている。

３　取組の経緯

「近江牛」のショーウインドウ放牧は、普段目にすることのできない牛の姿を消費者に見てもらい、目に見える「近江牛」として県内外に広くＰＲすることを目的として平成１９年度から始まった。

放牧の実施にあたっては地域振興局農産普及課が中心となり、放牧用地の確保や放牧資材の準備、飼養管理の現地指導、傷害保険等の加入などのソフト面での支援を行っている。また、放牧の普及定着を図るためＪＡ肉牛部会の事業として実施するよう働きかけている。

平成２０年度は放牧場が２カ所に増え、柵の設置や放牧牛の提供など部会員の協力のもとで運営されている（写真１、２）。

【写真１　部会員が協力して牧柵作り】

【写真２　のぼりと看板でＰＲ】

４　放牧の概要

放牧場は８０ａの水田２区画で、８月～１２月にかけて放牧が実施されている。

写真１のほ場では放牧に適した夏牧草を選定するため、試験的にグリーンミレット、イタリアンミレット等の作付が行なわれた。

しかし、湿害で生育が悪く、草不足による栄養不足と泥濘化が原因と思われるストレス症状（写真３・４）が見られ、今後、これらの対策が課題となっている。

【写真３　泥濘化】

【写真４　角の異常】

写真２のほ場は排水状況も良く、グリーンミレットが栽培されている。放牧後半の１１月には倒伏してしまったが、逆にこれを利用し、草の上に張った電気柵を捕食に合わせて少しずつずらしていく方法で効率よく捕食させている（写真５）。

【写真５　捕食割合が７割まで向上】

【写真６　新聞社の取材】

５　放牧の特徴

今回の放牧は多くの人に放牧牛を見てもらうため、交通量の多い幹線道路沿いの水田を放牧場にしている。そのため、脱柵事故を防止し、見学者が安心して見学できるよう以下の安全対策をとっている。

〇道路に面した外周に木製の柵を設置し、電気柵との２重構造としている。
〇放牧場近くの直売所に見学者用の駐車場を確保し、安全対策を図っている。
〇道路から離れた場所から放牧を開始し、徐々に車や人に慣らしている。
〇放牧期間中は損害賠償保険に加入。

６　放牧の効果

今回の放牧の取り組みは、「近江牛」をＰＲすることが主たる目的であり、その面からの効果は高かったと思われる（写真６）。

見学者の数は把握できていないが、道路を走る車窓から多くの方に「近江牛」の姿を見てもらうことができた。また、放牧場に立ち寄る見学者も多く、放牧を通じて畜産農家と消費者との交流も図れている。

見学にきた人からは「この牛は男の子それとも女の子」、「この牛もお肉になっちゃうの」、「放牧するとおいしい肉なるの」など、牛や放牧に対する素朴な質問が多く、消費者への情報提供の大切な場として期待されている。

執 筆 協 力・問い合わせ先
東近江振興局農産普及課　海老原
ＴＥＬ：0748-46-6504